

東京ラチエーター製造  
溶接など技術底上げ

# 社員研修の専用拠点

## 溶接など技術底上げ

東京ラチエーター製造は、社員研修の専用拠点を初めて設置する。本社工場（神奈川県藤沢市）内に構え、8月に運用を始める計画。生産自動化や溶接作業などについて全社共通の教育プログラムを策定し、従業員の技術や技能を底上げする。また熟練者から若手作業員への技能伝承にも取り組む。ロボット導入などによる工場のスマート化を円滑に進められるようにする。

東京ラチエーター製造を行う。コロナ禍収束が新設する研修拠点は「グローバルトレーニングセンター（GTC）」。「まずは本社工場の作業員を対象に教

育を行う。コロナ禍収束後は、中国やタイ、インドネシアにある海外拠点の人員も呼び寄せる計画。同社は車両や産業機械向けの熱交換器を手がける。熱交換器は溶接が品質を左右する重要な要素となっており、溶接ロボットの導入で品質の向上や安定化を図ってきた。

GTCでは、溶接ロボットの動作操作を設定する「ティーチング」技術などを教える。従来は担当者がロボットメーカーに向いて技術を習得していた。社内の教育体制を充実させてスキルアップを支援する。また手作業による溶接技能向上のための教育プログラムを用意する。ノウハウを作業員に教える。GTCのトレーニング。



東京ラチエーター製造が手がける大型車向けの熱交換器「インタークーラー」

▲これが、溶接する際の対象物に対する角度や、使う電流などの細かいノウハウを作業員に教える。今後はGTCを活用し、各分野の担当者が、業務で標準的に必要となる技術や技能を効率良く取得できるようにする。